

# 平成 30 年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

区分	普及	題名	早生糯水稻「めんこもち」の期待生育量と栽培法			
[要約] 「カグヤモチ」に優る収量570～640kg/10a (1.9mm篩調製)を安定生産するための目標とする総粒数は31～36千粒/m <sup>2</sup> 、穂数350～450本/m <sup>2</sup> 、登熟歩合80%以上である。窒素施肥量は、基肥を「カグヤモチ」と同等の6kg/10a、追肥は幼穂形成期に2kg/10aを上限とする。刈り取り適期の目安は、出穂後の日平均積算温度で1,000～1,100℃程度である。						
キーワード	めんこもち	期待生育量	栽培法	県北農業研究所 作物研究室		

## 1 背景とねらい

平成 29 年に水稻の準奨励品種に採用された「めんこもち (ふ系糯 234 号)」は、穂発芽性が難であり、餅加工適性に優れる早生の糯品種である。この品種は、従来「カグヤモチ」が作付けされていた九戸村を中心とする県北地域や県中南部の中山間地域で生産が見込まれており、「カグヤモチ」に優る収量確保と高品質な糯米の安定生産が可能な期待生育量と栽培法を明らかにする。

## 2 成果の内容

### (1) 目標とする収量および期待生育量

「カグヤモチ」に優る収量を確保する期待生育量は以下のとおりである (図 1～3)。

収量水準<1.9mm 篩> (kg/10a)	m <sup>2</sup> 粒数 (千粒/m <sup>2</sup> )	m <sup>2</sup> 穂数 (本/m <sup>2</sup> )	一穂粒数 (粒)	玄米千粒重 <1.9mm 篩> (g)	登熟歩合 (%)	稈長 (cm)
570～640	31～36	350～450	75～90	21.0～22.5	80 以上	72～80

### (2) 施肥法

基肥施肥量は窒素成分で 6kg/10a 程度、追肥は幼穂形成期重点とし窒素成分で 2kg/10a 以内とする (図 4)。

### (3) 幼穂形成期簡易栄養診断基準 (図 5～6)

基準項目	好適範囲
草丈 (cm) × 茎数 (本/m <sup>2</sup> ) × 葉色値 (SPAD)	1.35～1.6 × 10 <sup>6</sup>
葉色値 (SPAD, n-2 葉)	37～42

### (4) 刈取り適期

出穂後の日平均積算温度は 1,000～1,100℃である (図 7)。

## 3 成果活用上の留意事項

- 葉色が「カグヤモチ」より淡いので、追肥量の判断に注意する。
- ふ先色は、出穂直後には濃い赤色であるが、成熟期に達するまでに徐々に褐色となる。このため、遠目で見ると黄化が進んでいるように見えるので、刈り取り適期の判断は、黄化割合や日平均積算気温だけでなく、必ずテスト粒摺りして玄米をよく確認すること。

## 4 成果の活用方法等

- 適用地帯又は対象者等 「めんこもち」の栽培地帯
- 期待する活用効果 「めんこもち」の良質安定生産が図られる。  
(効果検証方法：九戸村糯団地における品種導入前(H28)と後の一等米比率、単収を比較)

## 5 当該事項に係る試験研究課題

(803) 水稻奨励品種決定調査[H14～30/県単]

## 6 研究担当者 長谷川聡、下川原智

## 7 参考資料・文献

- 平成 28 年度試験研究成果書「品種 切り餅加工適性に優れる早生糯水稻「ふ系糯 234 号」
- 岩手県農業研究センター 平成 25～30 年度試験成績書 (一部未定稿)
- 稲作指導指針 (平成 26 年 3 月)

## 8 試験成績の概要（具体的なデータ）

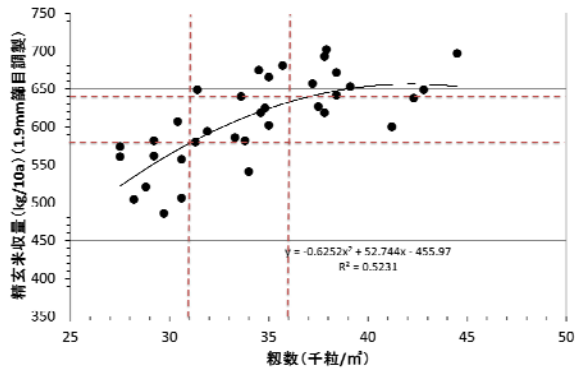


図1 1.9mm 調整収量と $m^2$ あたり粒数 (H25~30)

県北農業研究所（軽米町, H28~30 除）、現地（九戸村）

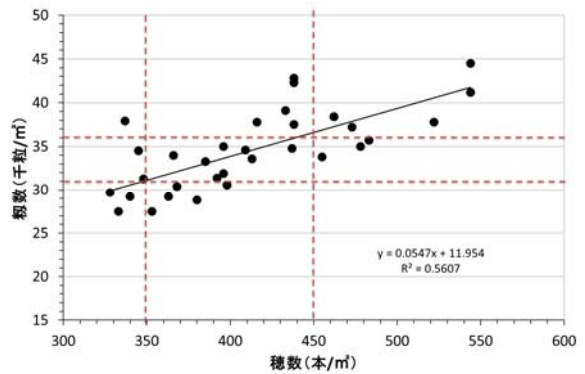


図2  $m^2$ あたり粒数と穂数 (H25~30)

県北農業研究所（軽米町, H28~30 除）、現地（九戸村）

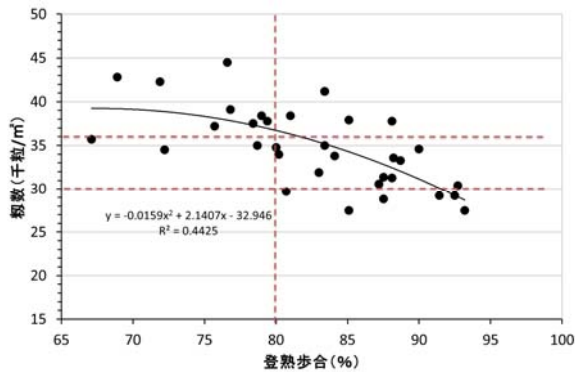


図3  $m^2$ あたり粒数と登熟歩合 (H25~30)

県北農業研究所（軽米町, H28~30 除）、現地（九戸村）

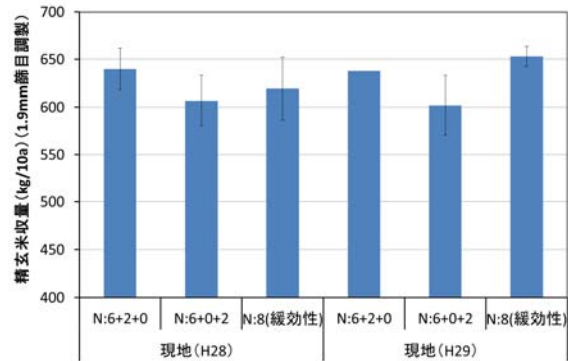


図4 1.9mm 調整収量と追肥時期 (H28~29)

N:6+2+0 基肥 6 kg/10a, 幼穂形成期追肥 2 kg/10a  
 N:6+0+2 基肥 6 kg/10a, 減数分裂期追肥 2 kg/10a  
 N:8(緩効性) 基肥 8 kg/10a (CG60, セアト R50 が総窒素の半量配合)  
 栽植密度 22.2 株/ $m^2$ 、栽植本数 4 本/株、現地（九戸村）

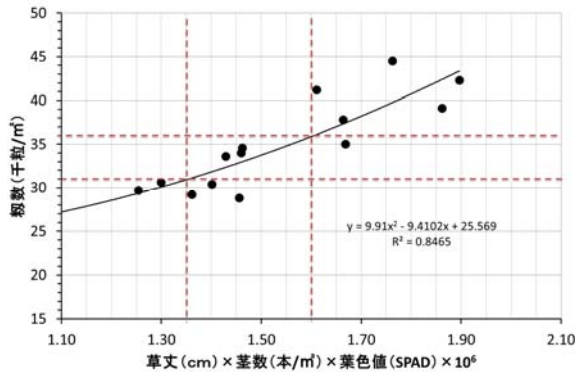


図5  $m^2$ あたり粒数と草丈×茎数×SPAD 値 (H28~30)

県北農業研究所（軽米町, H28~30 除）、現地（九戸村）

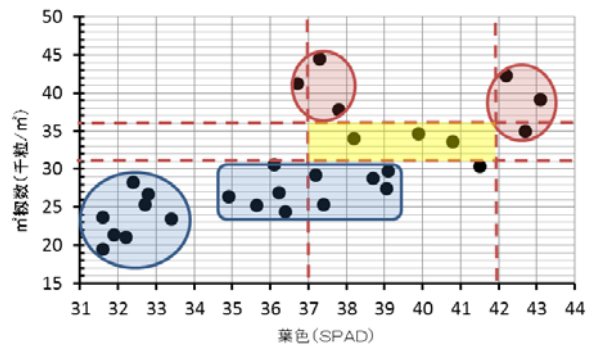


図6  $m^2$ あたり粒数と SPAD 値 (H25~30)

県北農業研究所（軽米町）、現地（九戸村）

※図中の囲んだプロットは簡易栄養診断基準の好適範囲（ $1.35 \sim 1.6 \times 10^6$ 、図中の黄色の部分）を外れたものを示す。

→青囲み： $1.35 \times 10^6$ 以下（粒数不足→積極的に追肥を実施）

赤囲み： $1.6 \times 10^6$ 以上（粒数過多→青未熟粒による落等事例あり）

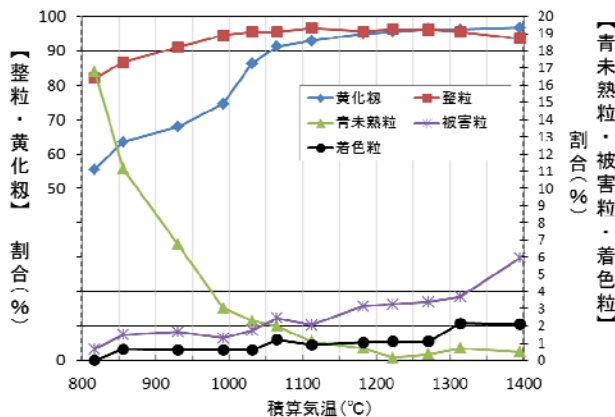


図7 刈取り時期別の玄米品質の推移 (H30)

県北農業研究所（軽米町）※1.9mm 篩調整玄米